

平成 31 年度 学校自己評価システムシート (県立進修館高等学校)

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、 明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」を支援して確かな学力の確実な定着・向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。 2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。 3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、地域から期待される学校を目指す。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		学 校 関 係 者 評 価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○義務教育段階の基礎学力を定着させるとともに、受け身姿勢の生徒が多い現状を踏まえ、さらに主体的な生徒の学びを促し、教員・生徒間のやり取りが活発な授業を展開する必要がある。	○基礎学力の向上及び定着と主体的な学びを促す授業の実施に向けた工夫及び改善	・本校生徒に見合った「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業研究及びICTの活用 ・基礎学力の向上に向けた授業の工夫・支援の充実、学習会の実施 ・基礎力診断テストを活用しての事前指導・事後指導の充実	・各教科内で互見授業及び授業研究を実施したか ・授業力向上研修会を実施したか ・家庭学習時間が増加したか ・定期考査前に学習会を実施したか ・基礎力診断テストのGTZの数値が上がったか	○授業力向上の取組、生徒の主体的な学びの姿勢は概ね良好であった ・10～11月に授業見学週間を設定し互見授業、授業研究を実施した。 ・11月7日、授業力向上研修会を実施した。 ・授業外学習への意識は低下している(ベネッセ調査)。 ・土曜勉強会の参加生徒数は287名(3回分)で、昨年度198名(4回分)と比較して大きく増加した。 ・基礎力診断テストのGTZの数値が全体的に上昇し、1・2年生ともBゾーンの生徒が増加した。	A	・授業力向上の取組や生徒の主体的な学びを引き出す取組は着実に成果を上げ、結果、土曜勉強会及び進学補習への参加生徒数の増加、基礎力診断テストにおけるGTZの数値の向上などに表れてきている。一方、授業外学習への意識が年々低下している現状もあるため、家庭学習を中心とした学習習慣の定着が今後の大きな課題である。 ・本校の進路指導に対する生徒や保護者からの評価は概ね高く、また、約9割の生徒が第一志望での進路先を決定している。資格取得・検定合格率では、特に、工業科で顕著な成果を残している。本年度新たに導入した進修館手帳をさらに活用することが今後の課題である。
	○安易な進路選択をさせないよう、また主体的に自己の進路を考えさせるよう組織的かつ計画的な進路指導が必要である。大学進学指導、資格取得や検定試験に向けた指導をより充実させる必要がある。	○生徒の主体的進路選択を促す指導と第1志望をかなえる組織的、計画的進路指導の実施	・学年、教科、進路指導部が緊密に連携した組織的進路指導の実施 ・進修館手帳を活用した進路意識高揚に向けての指導 ・生徒・保護者への適切な情報提供 ・進学補習、資格取得や検定試験合格に向けた指導の充実 ・生徒の能力や適性に見合ったミスマッチを防ぐきめ細かな就職指導	・組織的、計画的な進路指導が実施できたか ・進学補習への参加生徒数が増加したか ・進修館手帳を効果的に活用できたか ・保護者への進路情報を随時提供したか ・生徒・保護者アンケートの「きめ細かな進路指導を行っている」割合が増加したか ・第1志望進路決定率が増加したか ・資格取得及び検定合格率が向上したか	○学年・教科・進路指導部が連携し組織的、計画的な進路指導を展開した ・本年度の進学補習参加生徒数は、延べ152名で、昨年度延べ136名と比較して増加した。 ・進修館手帳の効果的活用については課題がある。 ・進路情報提供に関する保護者アンケートでの高評価の回答割合は、76%(昨年度79%)であった。 ・「きめ細かな進路指導を行っている」とアンケートで回答した割合は生徒79%(昨年度78%)、保護者82%(昨年度82%)であった。 ・第1志望決定率は、88.1%である(1月末現在)。 ・資格取得、検定合格率は、ほぼ例年どおり。	A	
2	○基本的生活習慣の確立や規律指導にこれまで組織的に取り組み、大きな成果を上げてきている。今後も継続して指導に当たることが必要である。 ○いじめ、特別支援、不登校等に対応するために教育相談の校内体制を整備する必要がある。	○基本的生活習慣と規律ある態度の育成に向けた組織的、継続的な生徒指導の実施 ○個々の生徒の情報交換及び情報共有による早期対策	・普段の日常生活における「凡事徹底」 ・頭髪整容指導等の組織的な指導 ・教育相談機能の整備と適切な対応 ・「いじめ防止対策推進法」や「障害者差別解消法」に基づく校内体制の確立	・基本的生活習慣の乱れによる遅刻及び欠席が減少したか ・問題行動発生件数が減少したか ・生徒アンケートの、規律ある態度の育成に係る各項目で改善が見られたか ・いじめや特別支援教育に関する校内研修会を実施したか	○基本的生活習慣の確立や規律ある態度の育成という点で、生徒の状況に課題が見られた ・昨年度と比較して、1・2学期の遅刻者数は24%増、欠席者数は15%増となった(延べ人数)。 ・問題行動発生件数は、昨年度と比べ増加した。 ・規律指導に関するアンケート結果は約9割が高評価。 ○要支援生徒へのサポート体制を整備し支援に当たった ・11月21日、SCを講師として心のケアに関する校内研修会を実施した。またSCによる要支援生徒・保護者へのサポートにも継続的に取り組んだ。	B	・基本的生活習慣の確立と規律ある態度を育成する指導は本校教育活動のすべての基礎となる。基本的生活習慣の乱れや問題行動に対しては、引き続き、粘り強く、生徒の心に響く指導に全校体制で取り組むことが課題である。 ・部活動及び学校行事に対し生徒は積極的に取り組んでおり、そのことが部活動の大会実績や学校行事の盛り上がりにつながっている。教職員の負担を軽減しながらさらに部活動・学校行事を活性化させるために、生徒の主体性や自発性を涵養したい。
	○部活動の充実と活躍が学校の一体感、盛り上がり大きく関わる。教職員の負担を軽減しながら、部活動・学校行事を活性化させることが課題である。	○部活動や学校行事等における生徒の主体的活動の促進と活性化	・部活動加入の積極的奨励及び未加入者への指導 ・部活動間の交流と活動実績の向上 ・生徒会活動を基に生徒が主体となった学校行事等の活性化 ・教職員の負担軽減と部活動・学校行事の活性化の両立	・部活動加入割合が増加したか ・部活動において顕著な活動実績が見られたか ・生徒アンケートで「学校行事に積極的に参加した」割合が増加したか ・教職員の負担感が軽減したか	○部活動、学校行事に対する生徒・保護者からの評価は非常に高かった(アンケート結果から) ・部活動加入割合は87%で、昨年度84%より増加した。 ・陸上競技部、機械研究部、電子機械研究部、写真部が全国大会、柔道部、ダンス部が関東大会出場。 ・「学校行事に積極的に参加した」と回答した生徒の割合は88%で昨年度と同じ割合であった。 ・教職員の負担感軽減については課題がある。	A	
3	○学科再編を踏まえ、総合学科、工業科を併せ持つ本校の魅力を、地域の中学生にさらに発信していく必要がある。	○多様な情報発信の継続と工夫改善 ○中学生対象の広報活動の改善	・学校通信を活用した効果的広報 ・HP更新回数増加による情報発信 ・地域活動への積極的な参加 ・本校の魅力を中学生に伝えることのできる学校説明会の実施	・市内外の行事等に参加した回数が増えたか ・学校説明会の参加生徒数が増加し、全学科において1.1倍を超える受検者の応募があったか	○地域との連携に例年以上に取り組んだ ・さきたま火祭り、田んぼアート、レインボーフェスティバル、熊谷ラグビー場こけら落とし、浮き城祭り、総合教育センター一般公開などに生徒を派遣した。 ○学校説明会や広報に全校体制で取り組んだ ・学校説明会参加生徒数は、延べ721名(昨年度745名)で微減したが、ほぼ例年どりの実績だった。 ・受検者の志願数も、昨年度より微減した。(2月末現在)	A	・様々な学科や系列を併せ持つ本校の魅力と多様性は他校にはない大きな強みである。そのような本校への信頼や評価も年々高まっていることが、地域との連携の活性化に着実に表れており、本校の良さをさらに効果的に発信していくことが今後の課題である。 ・「行田學」の導入により、生徒の郷土愛や愛校心はより高まっており、次年度、さらに質の高い探究学習を展開することが課題である。
	○「総合的な探究の時間」で「行田學」に取り組むこととなった。行田市教委、市内関係者、同窓会等と学校が連携し地域に根ざした教育活動を推進する必要がある。	○「行田學」の充実を通しての地域に根差した学校づくり	・「総探委員会」を中心とした3年間を見据えた「行田學」の企画・運営・実施 ・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携した教育活動の充実	・3年間を見据えた「行田學」の指導計画を整えることができたか ・生徒アンケートで「行田學」に対する肯定的評価が8割を超えたか ・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携することができたか	○「行田學」を通じた地域連携を深めることができた ・総探委員会を中心に、本年度の実績を踏まえ、3年間を見据えた指導計画を整えた。 ・生徒アンケートでは、ほぼ全員が、行田への理解を深め興味関心を高めたと回答していた。 ・行田市教委、忍郷友会、行田音頭保存会等と連携し、質の高い教育活動を展開することができた。	A	○地域での行事への参加はとて積極的に行っており、進修館高校の良いイメージが広がっていると感じる。 ○地元唯一の高校なので活躍を期待している。 ○地域行事への参加、中学校との交流は今後も積極的にお願したい。 ○文化祭で、もう少し中学生や他市の人にアピールできたらよい。 ○地域からの信頼や評価の高まりは嬉しい。本校を志願する中学生が増えればさらに良い。 ○行田は素敵などところなので、学校全体が「行田學」に関わっていけたらより強みになると思う。